

1 社会情勢

- (1) 2022 年 12 月 6 日より、30 日間の期限を設けて始まった恐喝事案多発に伴う治安維持強化措置（通称「例外状態」）については、2023 年 1 月 6 日に 45 日間の延長を実施して以降、2025 年 11 月 12 日に 25 回目の追加 45 日間の延長を繰り返しながら、現在へと至っています。同措置の対象地域は、2023 年 2 月 19 日の追加延長時に、国内全県・全県都を含む主要 226 自治体に拡大されています（※政令に誤記が散見されており、実際には 227 自治体と考えられます）。なお、当該措置については、市民に対して外出等を禁止するものではなく、状況に応じて、憲法で保障される集会・結社の自由、居住・移転の自由、身体の自由、住居の不可侵等の権利が制限又は停止されうるといえるものです。（当該措置については政権交代後の見通しは現在のところ不明）
- (2) 2025 年 11 月末に実施された総選挙では当初、大規模なデモの発生等治安の悪化が心配されていましたが、今次選挙に関連して、治安上の大きな問題は発生しませんでした。現在も政権交代等に向け各党の動きが活発になっていますが、今後も社会情勢の動きを注視する必要があります。

2 治安情勢

- (1) 2025 年中のホンジュラスにおける人口 10 万人あたりの殺人発生率は人口 10 万人あたり 23.23 人が殺害されているという結果でした。最も治安情勢が厳しかった約 10 年前の同種統計と比べると、殺人発生率は半減しており、ここ数年毎年減少傾向にあるとは言えますが、周辺諸国と比較した場合、依然として厳しい治安情勢が続いています。
- (2) 国家警察が発表した統計によりますと、2025 年における殺人事件の被害者数は 2,332 名とのことで、前年の 2,598 名と比較すると、266 名被害者が減少しています。

しかしながら、被疑者が無処罰状態と指摘する声も上がっており、警察及び検察の捜査能力の向上のほか、現場で治安維持に従事する警察官の増員が急務と考えられています。
- (3) 国内では、許可を受ければ合法的に銃器を所持できますが、非合法の銃器も相当数流通していると言われており、殺人事件の 8 割近くで、けん銃が使用されています。なお、武装した警備員と店先等で口論をした結果、感情が高ぶって射殺される事例が相次いでいます。自身を守るためにも、たとえ相手が店舗関係者であったとしても、口論は避けるようにしてください。
- (4) 昼間帯であっても、徒歩での移動は極力避けるべきですが、バスやタクシーの乗客を狙った強盗事件も頻発していますので、できる限り公共交通機

関は利用しない等の十分な注意が必要です。

また、夜間については治安情勢の問題に加えて、当地の道路状況の悪さ、交通事故多発等様々な問題があることから、不要不急の移動は避けてください。

- (5) 当地においては、マラス・パンディージャス（ギャング組織）が全国的に暗躍しています。テグシガルパやサンペドロスーラといった大都市の中にも各地に縄張りがあるとされており、麻薬や武器の取引を中心に、殺人や強盗、誘拐、人身売買等の凶悪犯罪を行っています。なお、かつては全身に特徴的な入れ墨を彫り、独自の服装を好んでいたマラス・パンディージャスの構成員ですが、最近では入れ墨を彫らず、普段着を好む者が増加しており、一見して同関係者と分からない場合が多いので、普段から自身の言動には十分に注意を払う必要があります。

3 最近の犯罪被害等

一昨年 4 月には夜間旅先から車で帰宅途中の在留邦人がテグシガルパ市内を運転中に道に迷い、ギャング団の縄張り地区に誤って立ち入ったことで、発砲を受け負傷しました。

また、昨年 4 月には、在留邦人 1 名が首都に向かうバスに乗車していたところ、拳銃バス強盗被害に遭いました。本事件においては乗客等が被疑者の指示に応じたため、他の乗客を含め命に別状はなく、重傷の傷を負ったものはいませんでした。他にも昼夜を問わず、毎日のように殺人・強盗事件が発生していることから、決して他人事と思わないようにすることが大切です。

こうした事件が発生した際、流れ弾によって死傷する善良な一般市民も多く、警察当局も年間平均で 10 名前後が流れ弾によって死亡していると発表していますので、特段の注意が必要です。

なお、交通事故については、邦人が当事者となるケースもあります。ホンジュラスにおいては、「交通事故死」が殺人死に次ぐ第 2 の死亡要因となっています。交通死亡事故者数は、殺人死亡者数に迫る数で、特に国道 5 号線 (CA5) 上での発生が顕著です (コルテス県ビジャヌエバ市～ヨホア湖周辺においては、走行車両に対する強盗事件也多発していますので、注意が必要です)。

また、都市圏では特にバイクに関連する事故が多いのも特徴です。

交通事故現場での言い争いをきっかけに、凶悪事件へと発展し、被害者となる可能性も十分に考えられますので、万が一の場合は感情的になることなく、深追いは避け、警察官の到着を待ちましょう。

4 テロ・爆弾事件発生状況

特になし

5 自然災害

中米では、例年6月から11月頃までがハリケーンシーズンとなっています。また、ホンジュラス国内各地でもこの季節に豪雨に見舞われることが多く、本年も豪雨の影響により、各地で洪水、河川の氾濫、土砂崩れ等による人的・物的被害が発生し、場合によっては停電、断水といった生活インフラの障害が生じるなど、復旧に長い期間を要しています。

このような被害に備えて、普段から水や食品の備蓄及び防災グッズ等の準備、危険事態対応省（COPECO）の警報等の最新の気象情報の入手に努め、身の安全を確保してください。

6 注意すべきこと

- （1）一般的に、ホンジュラス人の対日感情は大変良好ですが、過去には邦人を対象とした強盗事件等が発生しています。
- （2）特に、外務省「海外安全ホームページ」の危険情報に掲載された「レベル2（不要不急の渡航中止）」の地域に赴く場合には、事前に十分な情報収集を行ったうえで、最大限の安全策を講じる必要があります。
- （3）新聞紙面の個人売買欄やホームページ上に、電話番号等の個人情報を安易に掲載しないでください。こうした情報をもとに、マラス・パンディージャスによる恐喝行為が始まる場合もあります。
- （4）不幸にも、犯罪の被害者となった場合には、「911（日本の110番）」に通報のうえ、当館にも一報願います。

以 上